

福江ロータリークラブ

創立三十周年記念式典プログラム

島に灯ともそう奉仕のあかり

とき 1994. 4. 23
ところ 福江文化会館

ごあいさつ

陽春の候、本日ここに福江ロータリークラブ創立30周年式典を挙げるにあたり、公私共に御多用の折にもかかわらず、国際ロータリー第2740地区宮島ガバナーを始め、御来賓各位の御臨席を賜りたいへん光榮に存じます。また、多数のロータリアンの御来駕を頂き誠に有り難うございました。

当クラブは、昭和39年、スポンサークラブ長崎北ロータリークラブ並びに特別代表青山武雄氏の御尽力により、同年3月12日創立し、5月4日国際ロータリーへ加盟が認証されました。創成期のクラブの運営等については長崎北ロータリークラブの脇山幹事さんに万般にわたり御指導、御援助を賜わったときいております。謹んで御礼を申し上げる次第でございます。

爾来30年、歴代の会長、理事、役員を初め先輩各位の不断の努力によりまして、伝統あるクラブに成長発展してまいりましたが、これもひとえに歴代ガバナーの懇切なる御指導と地域関係団体の皆様の御協力によるものであり、深甚なる謝意と敬意を表すものであります。

30年の歴史のなかで、会員はチャーターメンバー27名から63名に増強され、地域の社会的ニーズに取り組み、活力あるロータリークラブを目指して微力ではありましたが相応の奉仕活動を推進して参りました。

創立30周年をひとつの節目として、これからも会員一同、ロータリーの基本理念をしっかりと見つめながら、より高い奉仕の理想と職業観を求めつつ奉仕活動を引き続き推進して参る所存でございます。

皆々様の一層の御鞭撻、御支援をお願い申し上げますと共に、皆々様の御健勝を祈念申し上げまして御挨拶と致します。

福江ロータリークラブ会長 早瀬 博道

創立30周年記念式典

●とき 平成6年4月23日
●ところ 福江文化会館

【式典】

| | | | | |
|-------|--------------------|-------------------------|--------|-------|
| 12:30 | 登 録 | 大会 S.A.A. | 貞方 利夫 | |
| 13:00 | 点 鐘 | | | |
| | 開式のことば | 実行委員長 | 嵩 則雄 | |
| | 国歌 斉唱 | | | |
| | ロータリーソング(奉仕の理想) 斉唱 | | | |
| | 物故会員への黙祷 | | | |
| | 来賓紹介 | 会 長 | 早瀬 博道 | |
| | 参加クラブ紹介 | 会 長 | 早瀬 博道 | |
| | 会長式辞 | | 早瀬 博道 | |
| | 来賓祝辞 | 第2740地区ガバナー | 宮島 傳兵衛 | |
| | | 長崎県知事 | 高田 勇 | |
| | | 福江市長 | 木場 彌一郎 | |
| | | 福江中央ロータリー クラブ会長 | 伊原 幾美 | |
| | 感謝状贈呈 | スポンサークラブ 長崎北ロータリークラブ | | |
| | | 歴代会長 | | |
| | 表彰状贈呈 | 20年以上の無欠席会員 | | |
| | | 28年 " | 山下 弥太郎 | |
| | | 26年 " | 中村 和正 | |
| | | 20年 " | 早瀬 博道 | |
| | 記念品贈呈 | 会 長 | 早瀬 博道 | |
| | | 宮島ガバナー・橋田第6分区代理 | | |
| | | チャーターメンバー | 山下 弥太郎 | 中村 繁春 |
| | | | 平山 禎己 | 中村 和正 |
| | | | 才津 金人 | |
| | 30周年記念事業報告 | 記念事業委員長 | 山本 鶴男 | |
| | 30周年記念事業日録贈呈 | 会 長 | 早瀬 博道 | |
| | 祝電披露 | 幹 事 | 平村 和男 | |
| | 閉式のことば | 副 会 長 | 北島 千代福 | |
| 14:30 | 点 鐘 | | | |

来 賓

| | |
|------------------------------|---------|
| R I 第 2740 地区 ガバナー | 宮 島 傳兵衛 |
| 長 崎 県 知 事 | 高 田 勇 |
| 福 江 市 長 | 木 場 彌一郎 |
| 福江商工会議所会頭 | 才 津 金 人 |
| R I 第 2740 地区 パストガバナー | 上 原 寛 |
| R I 第 2740 地区 ガバナーノミニ | 市 瀬 久米嘉 |
| R I 第 2740 地区 第 6 分 区 代 理 | 橋 田 克 男 |
| 長 崎 北 R C | 前 田 圭一郎 |
| 福江中央RC会長 | 伊 原 幾 美 |
| 福江青年会議所理事長 | 瀬 川 秀 昭 |
| 国際ソロプチミスト 五 島 会 長 | 近 藤 濱 子 |

参加クラブ

唐津東RC外15クラブの会員及びご夫人
福江中央RC会員
福江RC会員
福江RC会員夫人

記念講演会

- と き 平成 6 年 4 月 23 日 15 時 ~ 16 時 30 分
- と ころ 福江文化会館
- 講 師 岡 村 和 夫 氏 (NHK 解 説 委 員)
- 演 題 国会審議の争点と課題
今の政治で何が問題とされているか

祝 賀 会

大波止ホテル

| | | |
|--------------------|--------------------|-----------|
| 司会・親睦委員会 | | 松 林 行 一 |
| 17:00 開 宴 の 挨拶 | 会 長 | 早 瀬 博 道 |
| 祝 舞 | 正 派 若 柳 流 | 若 柳 幸 之 助 |
| 乾 杯 | 第 2740 地区 ガバナー | 宮 島 傳 兵 衛 |
| 記念ゴルフ大会優勝者表彰 | 会 長 | 早 瀬 博 道 |
| 郷 土 芸 能 | 長手民謡保存会 | |
| ロータリーソング (手に手つないで) | | |
| 万 歳 三 唱 | 福江中央ロータ リークラブ会長 | 伊 原 幾 美 |
| 閉 会 の 辞 | 実行副委員長 | 中 村 繁 春 |

記念ゴルフ大会

- と き 平成 6 年 4 月 21 日 木曜日 10 時 スタート
- と ころ 五島カントリークラブ
- 競技方法 個人戦
- 参加費 千円

福江ロータリークラブ概況

創 立 1964年3月12日(昭和39年)
R I 承認 1964年5月4日(創立順位612)
創立時ガバナー 嘉村平八
スポンサークラブ 長崎北ロータリークラブ
特別代表 青山武雄
区 域 福江島一円(福江市、富江町、岐宿町、玉之浦町、三井楽町)
事 務 所 福江市末広町8-4 福江商工会議所内
例 会 場 福江市中央町7 観光ビルはたなか
例 会 日 金曜日(12時30分から)
チャーターメンバー 27名(現在5名)
現在会員数 63名(平成6年1月1日)
正 会 員 36名
シニア・アクティブ会員 27名
会 員 の 年 齢 平均年齢 58.9才
最 年 長 者 83才 最年少者 41才

福江ローターアクトクラブ

創 立 昭和46年6月18日
解 散 平成3年6月28日

福江中央ロータリークラブ

創 立 昭和50年5月6日
スポンサークラブ 福江ロータリークラブ
特別代表 野田久雄

ク ラ ブ 受 賞

1969~1970

年次大会で出席優秀クラブとして受賞

1974~1975

年次大会でロータリー財団から370地区で増加率1位、優秀クラブとして受賞
400%-1.300%

1975~1976

ロータリー財団から1.300%の感謝記念楯受賞

1976~1977

1977~1978

1979~1980

各年度年次大会でロータリー財団寄付優秀クラブとして受賞

1979・12月

「社会を明るくする運動」の協力に対し法務大臣から表彰をうける

1980~1981

1981~1982

1982~1983

- 各年度年次大会でロータリー財団寄付優秀クラブとして受賞
- 1983～1984
年次大会で会員増強第6位で受賞
- 1984～1985
年次大会でロータリー財団寄付優秀クラブとして受賞
- 1985～1986
米山記念奨学会功労クラブとして受賞
- 1986～1987
当クラブ会員 野田 久雄君
国際ロータリー第274地区ガバナーに就任
年次大会
1986 11.23～24
福江文化会館
- 1986～1987
年次大会で出席優秀クラブ賞、会員増強優秀クラブ賞、ロータリー財団寄付優秀クラブ賞
(年間500%以上増加したクラブ)、ロータリー財団寄付優秀クラブ賞(年間6000%以上
にランクしたクラブ)、米山記念奨学会功労クラブ賞の五つの表彰をうける
- 1986～1987
RI会長賞を才津圭策会長受賞
- 1988～1989
ロータリー財団10000%達成クラブとして、平成元年5月、地区協議会(長崎市)で
受賞
- 1989～1990
地区ガバナー奨励賞受賞
- 1990～1991
米山記念奨学会功労クラブとして受賞、地区ガバナー奨励賞受賞
- 1991～1992
- 1992～1993
各年度、米山記念奨学会功労クラブとして受賞

寄 附

1. ロータリー財団

| | |
|-----------------|-----|
| ポールハリスフェロー | 40名 |
| 準フェロー | 2名 |
| メモリアル・コントリビューター | 1名 |
| マルチプルポールハリスフェロー | 8名 |

財団寄付過去累計額

76,363,477ドル (1993年4月30日現在)

ポリオプラス寄付金

目標額 240万円

昭和63年3月30日完納

2. 米山記念奨学金

米山功労者 13名

準米山功労者 1名

寄付金累計額 8,000,188円 (1993年6月30日現在)

魅惑の島五島列島

美しく豊かな自然、縄文時代から始まる多彩な歴史、そして島の人たちの厚い人情、五島列島はこれらの自然と歴史と人情が奏でる魅惑の島である。

島の西岸を洗って北上する暖流のために島の植物は南方系のもが多く、熱帯性のもの、暖地性のもの、なかには北方系植物の南限のものもあり、学術的に貴重な島である。ハワイ諸島にシダ植物で樹高四米余の“ヘゴ”が群生しているが、この“ヘゴ”の北限が福江島である。

昭和四十四年植物学者でもあられた昭和天皇ご来島の時、福江市の溶岸海岸で皇后様と植物ご散策をお楽しみになられた。陛下のスケジュールは分刻み、時間になってもお腰をおあげにならない。とうとう二十分延び、コースも半分でお帰りになられた。ご興味深い植物が多かったためであろう。

東シナ海の荒波に島の半分が削り取られて噴火口が青い海に屹立し、噴火の構造が丸見えの世界でも珍しい火山島。作家の曾野綾子さんを「カリブ海以来」と驚嘆させた青く美しい海。島も改竄が進んできたがまだまだ地球が生まれたそのままの自然が見る人を魅了する島である。

中国の勝れた文化を輸入して政治改革、仏教の興隆を図る目的の遣唐船が当時値嘉島と呼ばれた五島列島で最後の風待ちをするようになったのは、奈良時代も終りの第十四次遣唐船からだった。順風が吹き、いよいよ出航である。福江島の北西端三井楽を過ぎるともう島はない。運を天に任せて中国大陸に辿り着くばかりである。四隻の船に五百余人の乗組員、遣唐大使も空海も最澄も、今生の見収めの地になるかも知れない三井楽の草原を臉の裏に焼き付けて出航して行ったに違いない。この岬に立つ空海の語「辞本涯」（日本のはてを去る）の碑はこれらの人たちの勇気を讃え、又、遭難して再び日本の地を踏むことができなかつた多くの人々の鎮魂の碑でもある。領主の帰依、江戸時代の禁教令による断絶、幕末の復活、明治の大迫害、そして五十を数える教会の現在まで四百年に亘るキリシタン史。倭寇。幕藩体制下の異国船警備の軍役等々。原始、古代、中世、近世と切れ間なく続く島の一万年の歴史の興味は盡きない。

島を訪れる人たちからよく「五島の人には人情に厚い」と言う言葉を聞く。事実、新聞の投書欄でそういった事例の記事をよく目にする。

江戸時代も終りの寛政年間、大村領から千人二千人の潜伏キリシタン等が五島に行けば大村領でのような迫害もあるまいと移住して来た。彼等のふる里に俗謡が残されている。「五島へ五島へと皆行きたがる。五島やさしや土地までも」五島灘を隔てた一衣帯水の地であったから人情深い島と彼等に理解されていたのだろう。

島の縄文晩期(2400年前)の遺跡から父親の腕の中に一歳半の赤ちゃんをだっこさせて葬ってあった人骨が発掘された。なんと優しい心を持った五島の縄文人だろう。二千年の時の流れを忘れさせる感動の発掘であった。

五島人の人情深さは今始まったことではない。又、宗教や学問で教えられてきたものでもない。美しく、豊かな自然の中で生まれ育って来た伝統的なものではなからうか。

最後に、かねてから五島ご旅行を待ち望んでおられた昭和天皇のお気持がしみ出た昭和四十四年ご来島の折のお歌をご披露しよう。

久しくも五島を観んと思ひゐしが

ついに今日わたる波光る灘を (福江クラブ会員 的野圭志記)

式典出席者名簿

| | |
|---------------------|---------|
| R I 第2740地区ガバナー | 宮 島 傳兵衛 |
| 長 崎 県 知 事 | 高 田 勇 |
| 福 江 市 長 | 木 場 彌一郎 |
| 福江商工会議所会頭 | 才 津 金 人 |
| R I 第2740地区パストガバナー | 上 原 寛 |
| R I 第2740地区ガバナーノミネー | 市 瀬 久米嘉 |
| R I 第2740地区第6分区代理 | 橋 田 克 男 |
| 長 崎 北 R C | 前 田 圭一郎 |
| 福江中央 R C 会長 | 伊 原 幾 美 |
| R I 第274地区パストガバナー夫人 | 野 田 シ ゲ |
| 福江青年会議所理事長 | 瀬 川 秀 昭 |
| 国際ソプロチミスト五島会長 | 近 藤 濱 子 |
| 長崎新聞社五島支局 | 永 瀬 徳 豊 |
| 朝日新聞社福江通信局 | 梶 山 了 |
| 毎日新聞社福江通信部 | 椿 山 公 |
| 西日本新聞社福江通信部 | 藤 昭 男 |
| 読売新聞社福江通信部 | 伊 東 壯次郎 |
| NHK長崎・福江通信部 | 西 川 哲 夫 |
| K T N 福江通信部 | 中 村 九 永 |
| N B C 福江通信部 | 江 川 順 一 |
| N C C 福江通信部 | 梶 山 王 |
| N I B 福江通信部 | 川 端 和 夫 |
| 福江ケーブルテレビ(株) | 伊 東 総一郎 |

| | | | | | | | |
|---------|-----------|------|--------|--------|-----|---|---|
| 唐津東RC | 会 | 長 | 佐伯 磯治 | 長崎西RC | 幹 | 事 | 四元 永生 |
| 佐賀北RC | 幹 | 事 | 山崎 治彦 | 福江中央RC | 会副幹 | 会 | 伊原 幾美 坪内 律廣 幡谷 玄之 尼崎 荒尾 川喜 石本 今村 今利 今浦 江頭 樺島 川村 北坂 郡家 坂井 佐々木 薩本 佐藤 曾川 高田 富中 中西 野橋 橋本 畑幡 林平 平山 藤增 又野 手洗 御南 森 |
| 佐賀南RC | 会 | 長 | 友貞 源藏 | | | | 幾廣之長三半喜音儀紋繁紀末芳久実治晴雄一英次男雄昭勇一夫幸清右操美雄美雄三之廣勲吉登昭明 |
| | 幹 | 事 | 岡崎 信一郎 | | | | 嘉久男 |
| 佐賀西RC | 会 | 長 | 松本 淳子 | | | | 嘉久男 |
| 多久RC | 会 | 長 | 相浦 司道 | | | | 嘉久男 |
| | 幹 | 事 | 堀田 貢 | | | | 嘉久男 |
| 佐世保東RC | 会 | 長 | 太田 義史 | | | | 嘉久男 |
| | 副会 | 長 | 志久 雄三 | | | | 嘉久男 |
| | ローテアクト委員長 | 長 | 樋口 皓志 | | | | 嘉久男 |
| | 国際奉仕委員長 | 長 | 稲吉 喜代清 | | | | 嘉久男 |
| | 職業奉仕委員長 | 長 | 西岡 芳雄 | | | | 嘉久男 |
| | 親睦委員長 | 長 | 小松 國利 | | | | 嘉久男 |
| | | | 脇山 康次 | | | | 嘉久男 |
| | | | 横尾 | | | | 嘉久男 |
| 諫早多良見RC | 会 | 長 | 鬼塚 昭徳 | | | | 嘉久男 |
| 大村北RC | 会長 | エレクト | 朝長 正治 | | | | 嘉久男 |
| | 職業奉仕委員 | 長 | 富永 昇孝 | | | | 嘉久男 |
| | 出席委員 | 長 | 久富 保孝 | | | | 嘉久男 |
| 島原RC | 会 | 長 | 古瀬 亨直 | | | | 嘉久男 |
| | 直前会 | 長 | 山林 正直 | | | | 嘉久男 |
| 東長崎RC | 会 | 長 | 村上 幸三 | | | | 嘉久男 |
| | クラブ奉仕担当 | | 松浦 矩亨 | | | | 嘉久男 |
| 長崎RC | 幹 | 事 | 小林 喜平 | | | | 嘉久男 |
| | | | 太 | | | | 嘉久男 |
| 長崎東RC | 会 | 長 | 藤井 勢次 | | | | 嘉久男 |
| | 副会 | 長 | 中村 恒哉 | | | | 嘉久男 |
| | 幹 | 事 | 村上 寿朗 | | | | 嘉久男 |
| 長崎北RC | 副会 | 長 | 前田 圭一郎 | | | | 嘉久男 |
| | 幹 | 事 | 市丸 文弘 | | | | 嘉久男 |
| 長崎北東RC | 副会 | 長 | 鳥井 良一 | | | | 嘉久男 |
| | 幹 | 事 | 前田 司朗 | | | | 嘉久男 |

久己郎昭志次一昭吉男巖隆則人夫元司雄信与功明十男之博正幸稔彰猛實啓昭治三
 邦克哲恒圭京行之甚和一繁和誠和芳保義卓弘英一俊洋和忠憲洋
 野々伊
 佐安井牟的江松川今平野吉原堤川杉清寺川伊田川小山田赤森福西山芦北谷加栗万

福江 R C

朗治栄男哉郎泰一登勝男實夫昭治逸郎蔵
 志福郁拓一信太良信三加長和市耕
 道福男郎春巳正人策雄矢夫雄助嘉男正男功次昇罔範一夫造昭志
 博代和太繁禎和金圭則繁為正之和喜博鶴之良義庫利祐宣忠
 瀨島村下村山村津津津原口田津口本本村下嶋嶋谷方津田
 早北平山中平中才才嵩西才向山山才川山宇今山福福長貞才牟池

福江中央 R C

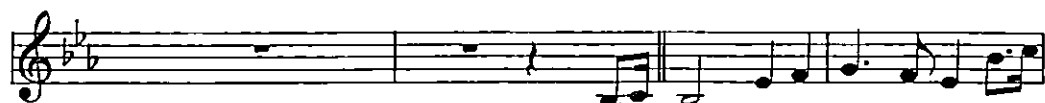
福江 R C

會長事
 会
 会副幹

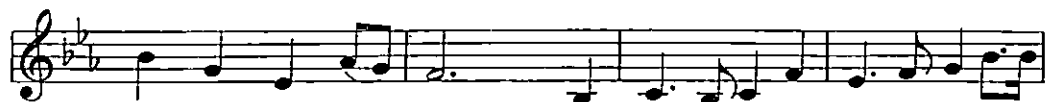
福江IRC会員夫人

高 美代子
中 村 玲子
向 原 智津子
才 津 春江
江 川 三和子
才 津 重子
平 山 節子
井 関 淳子
佐 々 野 高子
福 島 龍津子
平 村 恵美和子
早 瀬 美百合子
赤 岩 永百合子
安 原 愛子
伊 島 珠子
北 村 喜美子
中 原 田 春子
小 川 清悦子
芦 塚 佳子
福 島 益子
山 下 豊重子
才 津 マツエ子
北 川 敏子
川 上 萬寿恵子
池 田 えつ子
牟 田 きみ子

奉仕の理想



ほおし のりそー につど



いし と もー よ みく ににさ さげんわれ



らの なりわい のぞむ はせかい のくお



んのへい わ めぐーるはぐるまい や か



が やきて とわに さかえよ われ



らの ロー タリー ロ ー ター リ ー

奉仕の理想

元京都 RC
作詞 前田 和 一 郎
元東京 RC
作曲 萩原 英 一

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業なりわい

望むは世界の久遠の平和

めぐる齒車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー